

0843

第六四號

保存期限

決裁指定

決行指定



政務次官 回付 決裁前(連帶)課名



受領番號 參第一六八七號

起元應(課)名

決行(決裁)後 回覽課名

件名 照明器材九七式三種探照燈制式制定ノ件

大臣



政務次官



參與官

書記官

審案 筆記者

主務局長

高級副官



主務副官 官房御用掛



主務課長

主務課員



主務局長

昭和三十二年十二月二十九日

連帶局長

課長

大臣官房

昭和三十二年

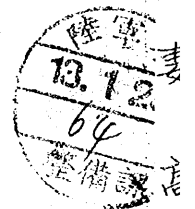
八月廿三日

決行(決裁)後 回覽局長

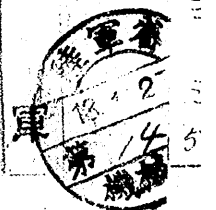
課長

昭和三十二年一月廿九日

甲兵部



陸



陸普副官ヨリ陸軍技術本部長へ通牒

首題探照燈案三月二十八日附陸技本 甲第七七一號上申
ノ通定メラルヘキニ付該圖面(概説共)一二三部送付セ
ラレ度

陸普第四九五號

昭和三年一月廿一日

右送付アリタル後左案決行相成度

陸普副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ通牒

首題探照燈別紙圖面ノ通定メセラレシニ付該圖面
(概説共)一部送付ス

陸普第三八二〇號

昭和拾參年六月廿七日

教育總監部及関東軍行三(一)内ヲ別紙配布表ノ通ニ改メ
作ル

昭和拾參年八月八日

附屬品別送



別紙添付

陸技本甲第七七一號

照明器材九七式三十糎探照燈制式制定ノ件上申

昭和十二年十二月二十八日

陸軍技術本部長

久村

陸軍大臣 杉山 元 殿

首題器材ノ制式ヲ別紙圖面ノ通制定セラレ度關係書類ヲ添へ上申ス

追テ九七式三十糎探照燈制定ノ上ハ現制九二式三十糎探照燈ハ制式ヲ廢止シ現品ハ命數限り使用差支ナキ意見ニ付申添フ

上 申 書 類

九七式三十糎探照燈制式兵器圖

同

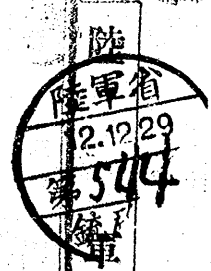
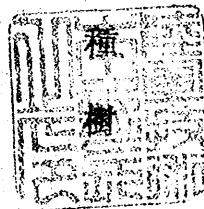
兵器細目名稱表

概説竝審査經過ノ概要

四六葉

二 部

二 部



0847

九七式三十種探照燈

概説
審査經過ノ概要



九七式三十種探照燈概説

用途

九七式三十種探照燈ハ輕易ナル近距離照明用探照燈ニシテ夜戰ニ於ケル攻防、要地ノ警備等ノ場合ニ用フ

構造及機能

一、九七式三十種探照燈ハ射光機、昇降柱、脚、電纜、手回發電機、屬品及豫備品ヨリ成リ光源ニ電球ヲ用ヒ手回發電機ヲ電源トシ射光機ヲ脚ニ裝シ又ハ手持ニテ使用シ得ルモノトス

(一) 射光機ハ胴型ニシテ金屬反射鏡及前面「ガラス」ヲ備へ内部ニ光源電球ヲ裝著ス

(二) 昇降柱ハ射光機ヲ裝載シテ脚ニ裝著セラレ射光機ノ昇降、旋回及俯仰ヲ行フ

- 四 脚ハ伸縮可能ナル木製三脚トス
 四 電機ハ射光機トシテ手回發電機トテ接続スルモノニシテ長サ七米トシ之ニ押釦式開閉器ヲ附ス
 五 手回發電機ハ一名ニテ發電シ得ルモノニシテ電壓調整器ヲ有ス
 六 屬品ハ分解手入用具、收入箱、收入袋及運搬具等トス
 七 豫備品ハ電球其ノ他ノ交換部品トス
 二、九七式三十種探照燈ハ射光機、電機、手回發電機、屬品及豫備品ヲ箱ニ、昇降柱及脚ヲ脚袋ニ收入シテ駄載運搬ス
 要スレハ射光機昇降柱、脚、電機、手回發電機及電球匡ヲ二名ニテ携行運搬ス
 三、九七式三十種探照燈ノ主要諸元左ノ如シ

陸軍

重量
 { 射光機 (昇降柱、脚、電機共) } 一四斤八〇〇
 { 手回發電機 } 九斤五〇〇

射光機中心ノ高さ
 { 高姿勢 } 二米八四
 { 低姿勢 } 一米四三

全光東 一、〇〇〇〇「ルーメン」

反射光度 五〇〇、〇〇〇燭

照明距離 (概ネ單獨兵ヲ認識シ得ル距離) 約五〇〇米

發電電力 一ニ「ヴォルト」「四〇「ワット」

昭和十二・十・東京助川納

九七式三十種探照燈ト九二式三十種探照燈トノ比較表

照 明 距 離	蓄 電 池	機電發回手		脚及柱降昇		機 光 射					全 備 重 量	車 載 ノ 別 式	名 稱 區 分				
		操 作 人 員	定 格 電 壓	定 格 電 力	重 量	射 光 機 中 心 ノ 高 サ	反 射 鏡 ノ 直 徑	壽 命	全 球 照 射 角	定 格 電 壓				定 格 電 力	反 射 鏡	重 量	
																	高 姿 勢
概 ネ 單 獨 兵 ヲ 認 識 シ 得 ル 距 離 約 五 〇〇 米	無 シ	一 名	一 二 「 ヴ ォ ル ト 」	〇 「 ワ ツ ト 」	九 疋 五 〇〇	一 米 四 三	二 米 八 四	五 〇〇、 〇〇〇 燭	平 均 二 五 時 間	一、 〇〇〇 「 ル ー メ ン 」	一 二 「 ヴ ォ ル ト 」	四 〇 「 ワ ツ ト 」	「 ロ ヂ ウ ム 」 め つ き 反 射 鏡	六 疋 〇〇〇	四 三 疋 五 三〇	九 七 式 三 十 種 探 照 燈	
同 上	有 リ	二 名	八 「 ヴ ォ ル ト 」	四 〇 「 ワ ツ ト 」	一 七 疋 五 〇〇	一 米 六 〇	三 米 〇〇	八 疋 五 〇〇	五 〇〇、 〇〇〇 燭	約 六 三 〇 「 ル ー メ ン 」 (五 〇 燭)	一 〇〇 時 間	八 「 ヴ ォ ル ト 」	四 〇 「 ワ ツ ト 」	銀 め つ き 反 射 鏡 表 面 ニ 耐 熱 耐 錆 塗 料 ヲ 施 ス	六 疋 七 〇〇	一 二 三 疋	九 二 式 三 十 種 探 照 燈

陸 軍

九七式三十糎探照燈審査經過ノ概要

一、審査ノ起因

昭和四年六月一日陸密第一六〇號陸軍技術本部第二部管掌兵器研究方針並昭和十二年七月二十一日陸機密第九二號陸軍技術本部兵器研究方針ニ基キ審査ヲ開始ス

二、審査ノ經過

(一) 昭和十年十一月研究ニ著手シ昭和十一年二月第一次試製ヲ完了ス

(二) 昭和十一年二月機能試験ノ結果若干改修ヲ要スル點アルヲ認メ第二次試製ヲ實施スルニ決ス

(三) 昭和十一年四月第二次試製ニ著手シ昭和十一年六月完了ス

(四) 昭和十一年八月部内試験ノ結果主要部ノ機能良好ニシテ實用價値大ナルヲ確認ス

(五) 昭和十一年九月實用試験ヲ陸軍歩兵學校、陸軍騎兵學校及陸軍工兵學校ニ委託シ其ノ成績概ネ良好ナルヲ認ム

委託試験成績別

(六) 昭和十二年一月委託試験結果ニ基キ第三次試製ニ著手シ昭和十二年三月完了ス

(七) 昭和十二年五月部内試験ノ結果改修部位ノ機能良好ナルヲ認ム
以上ニ依リ本探照燈

ハ照明器トシテ

三十糎探照燈實用試驗成績拔萃
第一判 決

陸軍歩兵學校
陸軍騎兵學校
陸軍工兵學校

判

決

陸軍技術本部ニ於ケル處置

一、陸軍歩兵學校

試製三十糎探照燈ハ九二式三十糎探照燈ニ比シ重量少ニシテ精度亦遜色ナク夜間ニ於ケル使用モ亦容易ナルヲ以テ別項意見ニ基キ改修ヲ加フルニ於テハ實用ニ適スルモノト認ム

一、陸軍騎兵學校


試製三十糎探照燈ハ其ノ構造、取扱概ネ輕便ニシテ且照明能力適當ナルヲ以テ實用ニ適スルモノト認ム
但シ騎兵用トシテ
載シ得ル設備ヲ必要トス

第二所要改正事項ノ部ニ記述ス

	<p>一、陸軍工兵學校 試製三十種探照燈 シ其ノ性能、運搬 ノ改正ヲ加フレハ制式器材トシテ適當ナルモ ノト認ム</p>

昭和十二年・十・東京 助川納


第二所要改正事項

所要改正事項	陸軍技術本部ニ於ケル處置
<p>一、射光機</p> <p>1、胴ニ九二式三十糎探照燈ノ如キ點滅式遮光裝置ヲ附スルコト（步校）（工校）</p> <p>2、支桿ヲ俯仰裝置作動子ニ連結スル爲ノ筈ハ防寒手袋ヲ穿チタル儘容易ニ操作シ得ル如キ構造トナスコト（步校）</p> <p>3、近距離照明ノタメ光芒開角ヲ増加シ得ル如クスルコト（騎校）</p> <p>4、前面硝子ノ蝶番ヲ一層堅牢トナスコト（騎校）</p> <p>二、昇降柱</p> <p>1、射光機托臂  入スル操作ヲ一層容易ナラシムル如クスルコト（步校）</p>	<p>改正ス</p> <p>改正ス</p> <p>改正ス</p> <p>改正ス</p> <p>改正ス</p>

陸軍

三、脚	1、開脚止ノ鎖 ノ如クスルコト(歩校) 2、脚ノ携行容積ヲ一層小ニシ搬送及操作ヲ 容易ナラシムルコト(騎校)	改正ス
四、電 纜	1、夜間ノ作業ヲ容易ナラシムルタメ所々ニ 白色ノ部分ヲ附スルコト(歩校) 2、點滅器ノ形状及大サハ適當ナルモ點ヲ保 持スルタメノ裝置ハ適當ナラス、點及滅ヲ 自体保持シ得ル如クスルコト(歩校)	改正ス
五、手廻發電機	3、電纜ノ長サ五米ヲ七米トスルコト(騎校) 4、開閉器ヲ九二式三十纏探照燈ノ如クスル コト(工校)	改正ス
1、脚緊定用蝶「ナット」及之ヲ嵌入スル截 缺部ニハ組立テ一層容易ナラシムル如ク白	開閉器ヲ九二式三十纏探照燈ノモノト畧 同様ノ型式ニ改メ要求ニ適合セシム	改正ス

昭和十二・十・東京 助川納

	<p>色塗料ヲ施スコト(歩校)</p> <p>2、發電機ノ音響ヲ努メテ減少スルコト (騎校)</p> <p>六、屬品</p> <p>1、懐中電燈ノ内部機構ヲ尙一層堅牢ナラシムルコト(歩校)</p> <p>2、收容箱ニ駄馬具ニ装着シ得ル設備ヲナスコト(騎校)</p> <p>3、脚袋ノ提革ハ落失ヲ豫防スルタメ繼著スルコト(騎校)</p>
	<p>幾分減少ス</p> <p>改正ス</p> <p>輻重用十五年式駄馬具(一般用)ニ装着シ得ル設備ヲナシアリ</p> <p>改正ス</p>

昭和十二・十・東京 納川 納

0859



参 第一二八七

陸技本甲第三七六號

照明器材九七式三十糎探照燈圖面竝概説送付ノ件通牒

昭和十二年六月二十三日

陸軍技術本部副官 筒井三郎

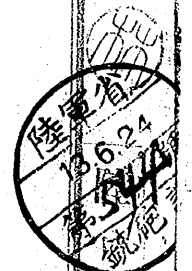
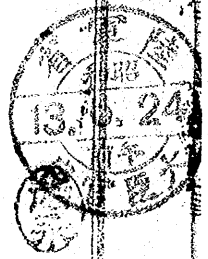
陸軍省副官 榑淵 鎧 一 殿

本年一月三十一日附陸普第四九〇號通牒ニ係ル首題ノ圖面竝概説

(圖面四拾七枚 概説 壹枚)

各百貳拾參通送付ス

追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上機械課へ直送可致ニ付承知セラレ度



軍

454
卷 1687

0980

2

保存期限
 永久
 決裁指定
 決行指定

主務局長
 受領
 昭和十三年十一月二十九日
 提出
 昭和十三年十一月十九日
 受領
 昭和十三年十一月十九日
 了結
 昭和十三年十一月十九日

大臣
 次官
 政務次官
 主務局長

政務次官
 參與官
 回付
 決裁前後連帶
 十二年
 參第一六八七號

九七式三十種探照燈細目名称表制定ノ件

連帶
 決行後
 決行後
 局長
 局長

高級副官
 主務副官
 主務課員
 主務局長

起元應課名
 決行(決裁)後
 回覽課名

課長
 課長

主務副官
 主務課員
 主務局長

陸軍技術本部

陸軍

陸普 副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ通牒
 首題細目名稱表別紙ノ通定メラレシニ付
 部送付ス
 平時用

陸普第三〇三〇號

昭和拾參年五月廿參日



本表ハ別紙原稿ニヨリ官房ニ於テ三五〇部印願相成度

昭和十三年八月十九日 贈品送付済



兵器細目名稱表(器械其三)九七式手榴彈燈 配賦表											
配賦箇所		平時用	戰時用	配賦箇所		平時用	戰時用				
大臣官房	二			運輸部	九						
兵務局	二			經理學校	一						
整備局	二			航空兵團	一四						
兵備局	四			近衛	二〇	一四	三				
參謀本部	三	一〇		第一師	二	二	六				
教育總監部	三四			第二師	一	一	五				
兵器本廠	三七			第三師	一	一	五				
造兵廠	三七			第四師	一	一	五				
技術本部	一八			第五師	一	一	五				
築城本部	一			第六師	一	一	五				
航空本部	二七			第七師	一	一	五				
				第八師	一	一	五				

